【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」

学校だより　堂崎っ子

第 15 号
令和 8 年 10 月 14 日
南島原市立堂崎小学校
校　長　　末吉　優

平凡の積み重ね……誰でもできる平凡なことから徹底しませんか



「掃除を通して心を磨く」を理念に全国で活動する「日本を美しくする会」は、鍵山秀三郎さん（イエローハット創業者）の提唱により始まりました。鍵山さんの経営方針はトイレ掃除で社風を変えるというものでした。トイレ掃除の神様と言っても過言ではありません。

半世紀以上前、会社設立の頃は、高度経済成長と反比例するかのように日本人の心が穏やかではなかった時代だったといいます。その中で、社員の心をどうしたら少しでも穏やかにできるかと考えた結果が、「身近な場所をきれいにすること」でした。人は日頃から見ているものや接しているものに心が似てくるはず。そんな思いから、鍵山さんは社内やその周辺の掃除を始めたのです。

「あなたのやっていることは、ざるで水をすくうようなものだ」と言われても、こつこつと続けた鍵山さん。やがて社員も一緒に取り組むようになり、よそから掃除の指導を頼まれるようになりました。

鍵山さんは、次のように振り返ります。「私が今まで歩いてきた人生をひと言で表現すると**「凡事徹底」、つまり「誰にでもできる平凡なことを、誰にでもできなくらい徹底して続けてきた」**ということに尽きます。人が見過ごしたり、見逃したり、見捨てたりしたものをひとつひとつ拾い上げ、価値を見出す。やれば誰でもできる平凡なことを徹底して、その中で差をつける。そんな信念をもって、今まで生きてきました。」

ともすると、人間は平凡なことは軽くあしらいがちです。難しくて特別なことをしなければ、成果が上がらないように思い込んでいる人がいるのではないでしょうか。そんなことは決してありません。世の中のことは、平凡の積み重ねが非凡を招くようになっています。

鍵山さんは「ざるで水をすくっても、必ず二滴か三滴はたまる。それを繰り返しているうちに、バケツいっぱいになり、たらいいっぱいになる」と言います。こうした思いで続けた活動が、多くの人の心を動かしているのです。

島原特別支援学校児童　居住地学校交流を行いました　１０月１日（木）

１０月１日（木）には、特別支援学校から3名（3年生１名と5年生2名）が堂崎小学校を訪れ、交流学習を行いました。6月下旬の訪問から間もないこともあったのでしょうか、今回の交流をとても楽しみにしていたようでした。担任の先生と保護者で校長室へ挨拶に訪れ、お互いに会話を弾ませました。

今回は、3年生・5年生合同によるマット遊び・マット運動でした。5年生児童が技の手本を見せ、それぞれのコーナーで練習を行いました。練習する中でアドバイスする姿や笑顔が見られ、異学年の交流もでき、有意義な時間となったようです。

給食時間になると、手早く準備を行い、グループでおいしそうに給食をいただいていました。

この交流学習の計画と実践に携わっていただいた先生方、たいへんお世話になりました。






6年生「ふるさと発見ツアー」　10月2日（金）

南島原ひまわり観光協会や南島原市商工観光課による「ふるさと発見ツアー」が開催されました。

まず、「島原・天草一揆」について「有馬キリシタン遺産記念館」で映像や展示資料を見学しました。次に、一揆の舞台となった「原城跡」を見学しました。

ひまわり観光協会ガイドの　竹下　様からは、子供たちにキリスト教の布教と弾圧、農民たちの生活の苦労について、分かりやすく、興味深く説明してくださいました。6年生児童にとって、これから学習する社会科（歴史）において、今回の見学・体験と照らし合わせて学習を進めるのではないかと思います。


<有馬キリシタン遺産記念館>


<隠された十字架：薩摩藩の家紋と類似>


<天草方面を向く天草四郎の像>


<ガイド竹下さんから原城の説明を受ける>

2年生生活科　まちの公共施設を見学しました

10月2日（金）堂崎郵便局見学

生活科学習の一環として堂崎郵便局の見学をしました。子供たちは、日頃利用している郵便局がどのような仕事をしているか、職員の皆様がどのような思いで業務に取り組んでおられるのかを実際の様子を見て学びました。



通常業務があるにもかかわらず、局長様はじめ職員の方に説明していただきました。また、事前にお知らせしていました質問内容について、懇切丁寧に、対応していただきました。今回の見学を通して、子供たちは郵便局の仕事への理解を深めるとともに地域の方々が自分たちの生活を支えてくださっていることに気付いたことも思います。御協力いただきました郵便局の皆様に感謝申し上げます。





児童集会：３年生の発表　【　10月７日（水）】

3年生が、日頃の音楽授業の成果を発表しました。演奏のタイトルは、「ゆかいな木きん」で、鍵盤ハーモニカとリコーダーのハーモニーを見事に奏でることができました。



改めて思うことは、発表する場、目的意識・相手意識が明確であると、子供たちの真剣度がさらに高まり、自分たちの成長する場となったことです。演奏している子供たち自身が楽しいと感じながら発表していたと感じました。